

2026 年 年頭にあって

ジャオクラブ代表 大澤 輝之

ジャオクラブ会員の皆様、2026 年・令和 8 年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。本年もクラブの諸活動に参加され、有意義な一年をお過ごしになれることを心よりお祈りいたします。

高齢になると、ただでさえ月日の経過が早く感じられるものですが、つい先日新しい年を迎えたと思ったら、また新たな年を迎えることとなりました。昨年は地球温暖化の影響もあってか、酷暑の夏が長く続き、春や秋が例年より短かったように感じられます。これは私だけの実感でしょうか？

近年、会員数の減少と、それに伴う平均年齢の高齢化は、クラブとして対応しなければならない喫緊の課題となっています。今年も引き続き新入会員の勧誘に力を入れていきたいと考えておりますので、皆様のご友人や知己の方々にも、積極的にお声がけいただければ幸いです。

クラブ創立以来、伝統ある「ジャオニュース」は、会員の貴重な情報共有のツールとして重要な役割を果たしてきました。本年 4 月を目途に、現在のホームページでの掲載から、サークルスクエアへと新しい形で移行する予定です。理由につきましては「ジャオニュース」2025 年 12 月号でご説明しておりますが、実施に当たっては、パソコンやスマートフォンを常用される方も、そうでない方も含め、すべての会員が情報を共有できることを主眼に、発行の仕組みを検討しております。

社会全体が急速にデジタル化する一方で、情報が本来の意図とは異なる形で拡散・悪用される例も少なくありません。今回の掲載形態の変更は、そうした事態を未然に防ぎ、真に会員のための「ジャオニュース」であり続けるための取り組みであるにご理解いただければ幸いです。

昨年は、終戦 80 年の節目の年でもありました。終戦当時 3 歳であった私は、東京空襲の最大被害地から疎開していたため、戦争の記憶はほとんどありませんが、先輩会員の中には惨禍を身をもって経験された方もおられることでしょう。この 80 年間、日本はさまざまな困難を乗り越え、平和を維持してきました。国力の低下が指摘される昨今にあっても、周辺諸国の動向に翻弄されることなく、平和な社会が続くことを願わずにはられません。

本年も皆様のさらなるご健勝とご活躍を祈念し、年頭のご挨拶といたします。

事務局だより

会員数（2025 年 12 月 1 日現在）

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
36	31	28	28	123 名（E グループ会員：113 名）

入退会 なし

次回の運営委員会と HP サークル

運営委員会 日時：2026 年 1 月 18 日（日）10:00～12:00 オンライン開催

議長：坂井委員 書記：高橋委員

HP サークル 日時：2026 年 2 月 8 日（日）15:30～17:00 オンライン開催 議長：竹内委員

古いワード・エクセルを使っていますか

皆さんがお使いのワードやエクセルについて、大切なお知らせです。

ワードやエクセルは、マイクロソフト社が販売している「Office」というソフトに含まれています。Office には使用期限があり、期限を過ぎると、安全を守るための手当がなくなります。

現在、安全に使えるのは次の二つです。

- ・ Office 2021（2026 年 10 月まで）
- ・ Office 2024（2029 年 10 月まで）

それより古い Office 2016、Office 2019 などは、すでにマイクロソフト社が安全を守るための手当を終えました。

◆ そのまま使い続けると、どうなるか

すぐに使えなくなるわけではありませんが、次のような危険があります。「今まで大丈夫だったから安心」という状態ではありません。

- ① ウイルスが入りやすくなる
- ② 写真や文書が消えることがある
- ③ 名簿や住所が外に漏れることがある
- ④ 知らない間に、他人に迷惑をかけてしまうことがある



◆ どうすればよいか

大きくは3つの方法があります。

① 新しい Office に入れ替える

一度買えば、数年は使えます。ただし使用期限はあります。料金は43,980円です。

② 毎年料金を支払う方法に切り替える

常に新しい状態が保たれます。料金は年間21,300円です。

③ インターネット版を使う

インターネット版のワードやエクセルは無料です。お金はかかりませんが、できることが限られており、使い勝手も違います。使い方の説明がありませんので、慣れないと戸惑うと思います。

◆ 自分のバージョンが分からない方へ

自分がどの Office を使っているか分からない場合は、早めに確認することが大切です。

「ご家族に相談する」「パソコンを買った店に相談する」などをおすすめします。

そのスマホ、いつまで使えるかご存じですか

スマートフォンについて、大切なお知らせです。

スマートフォンは、ずっと使えるものではありません。多くの場合、購入から4～7年ほどで、メーカーが修理や安全面の手当てを終えます。

◆ 古いスマートフォンを使い続けると、次のような問題が起こりやすくなります。「今まで使えていたから安心」ということはありません。

- ① 故障しても修理できない
- ② ウイルスが入りやすくなる
- ③ 写真や連絡先が消えることがある
- ④ 個人情報に外に漏れる危険性が高まる



◆ 長く同じスマートフォンを使っている方は、一度、ご家族や購入したお店、携帯電話会社の窓口、家電量販店などで、相談することをおすすめします。分からないまま使い続けると危険です。

じゃお湘南

FM ラジオで「じゃおグリークラブ」が紹介されます

じゃおグリークラブが、地域 FM 局「レディオ湘南 (FM83.1)」の「藤沢市広報番組 ハミングふじさわ」で紹介されます。

放送は 2026 年 1 月 1 日と 2 日、2 日間にわたって予定されています。詳しくは下記の通りです。

放送予定

2026 年 1 月 1 日

10:00～10:30 (19:00～19:30 に再放送)

藤沢市長の新年の挨拶に続いて、サークル紹介で「グリークラブの発足から現在に至るまで」が紹介されます。最後に合唱「ふるさとは今も変わらず」が流れます。

2026 年 1 月 2 日

10:00～10:30 (19:00～19:30 に再放送)

藤沢市教育長の挨拶に続いて、サークル紹介で「グリークラブをご指導頂いている内村先生の話とメンバーの話」があり、最後に合唱「オーシャンゼリゼ」が流れます。



写真：12 月 18 日に行われた取材の様子

レディオ湘南 FM83.1 を聞くには

レディオ湘南は FM ラジオでお聴きになれます。藤沢市周辺が主なサービスエリアですが、電波が届かない地域でも、パソコンやスマートフォンで聴くことができます。

1. FM ラジオで聴く場合は、周波数を 83.1MHz に合わせます。
2. パソコンの場合は、下記の URL をクリックします。繋がったページで、再生ボタン ▶ を押すと聴くことができます。 <https://www.jcbasimul.com/radioshonan>
3. スマートフォンの場合も、上記の QR コードをタップすれば、再生ページに繋がります。また、右に用意した QR コードをスマートフォンで読み取って再生ページに繋ぐこともできます。
どちらの場合も、その後、再生ボタン ▶ を押すと聴くことができます。



合唱に興味のある方、仲間と楽しく歌ってみたい方は、ぜひ放送をお聴きください。

見学・参加はいつでも歓迎です。月 2 回、主に第 2・第 4 木曜が練習日です。見学ご希望の方は湘南の新藤または亀丸まで。

(湘南：新藤 正則 記・亀丸 広司 写真)

秋の「男の料理 & CSS」を開催

じゃお湘南は2025年10月26日（日）、藤沢市明治市民センターで秋の「男の料理 & CSS」を開催しました。参加者は13名、「男の料理」には入会検討中の宮代さんと午後からのCSSの講師にお招きした竹内さん（多摩・田園）にも加わって頂きました。

男の料理

「男の料理」のメニューは幹事が協議して決めました。

- ① ガラムマサラのスパイスカレー（じゃお農園の鶴首南瓜入り）
- ② ラッシー（インド料理では定番な飲み物）
- ③ 茄子の揚げ煮
- ④ 青豆ごはん

カレーの辛さと鶴首南瓜の甘味が絶妙の調和を生み出し、伝統的和風料理の茄子の揚げ煮は高熱の揚げ油を使うので、初体験の人が多いため少し不安がありましたが万全の対策を立てて臨み、事故無く終わることが出来ました。ニンニクは、じゃお産を使えたので費用を安くあげることができました。



CSS (Creative Senior-Life Salon)

午後からのCSSは竹内講師からパソコンとプロジェクターを使っの貴重な講演を、実演を含めて行って頂きました。CSSの運営、企画は宮澤さんが担当されました。

テーマ：最近の生成AIはここまでできる！

内容

- ① 文章の要約
- ② 案内状の作成
- ③ 文章の校正と校閲
- ④ AIとの対話で計画を作る

AIを使うと文章の要約が短時間に出来、チェックすべき箇所も指摘して貰えること。案内状の作成では読み手のプロフィールを伝えておけば読み手に合わせた文章に、記述の順序やこちらの希望を整理して伝えればAIはそれなりに対応し、内容ごとに表題をつけて整理したり、表形式に書き換えたり…。

旅行の計画などはAIとの対話を通じて作ることが出来るようです。講演を聞いてここまで出来るのだと感心しました。

活発な質疑応答が行われ、参加者の皆さんは大いに満足したようです。AIが使える用途は多く、人手不足を助けている現状を実感できたひと時でした。



（湘南 島村 忠男 記・写真 古岡 實）

第 46 回藤沢市明治地区ふるさとまつりに参加して

じゃおクラブ湘南は、11月9日（日）10時～15時に開催された第46回藤沢市明治地区ふるさとまつりに、昨年に引き続き「子供工作教室」で出展しました。私たちは模擬店部会に所属し、会場となる明治市民センターに隣接する土打公園には、来場者休憩施設を含め21団体が20張のテントで活動します

やきそば、たこやき、焼き鳥、豚汁、ジュース、綿菓子など飲食の出店が多い中、私たちは幼稚園児や小学校低学年の子どもたちに、対面で工作を教える活動を行いました。今年は「万華鏡」と「CD コマ」に絞って実施しました。

9時にメンバー7名が現地に集合し、まず行ったのは、前夜の雨でテントに溜まった雨水を落とす作業と、泥でぬかるんだ地面に砂を入れて子供たちの足場を整えることでした。

11時過ぎ、雨がようやく止み、少しずつ客足が増え始めました。しかし、親同伴の幼稚園児や小学1年生は来るものの、普段は友達同士で活動する小学2～3年生がなぜか全く姿を見せません。おそらく、雨の降らなかった前日（8日・土）に行われたスタンプラリーへ参加したのでしょう。

雨の影響もあり、今年の売上（完成個数）は万華鏡35個、CD コマ9個、合計46個と大きく減少しました。2024年度の112個、2023年度の101個と比べると約4割減です。

それでも11時半を過ぎると急に忙しくなりました。幼稚園児や未入園児の中には、ハサミや糊を使ったことがない子もいましたが、一生懸命に作り上げた万華鏡を嬉しそうに眺め、「ありがとうございます」とお礼を言う姿、そして笑顔のお母さん方を見て、本当に良かったと感じました。

今回、私にとって特に良かったのは、万華鏡の部品作成のため、7月～9月にかけて明治市民センターで5日間、延べ10時間、延べ29名の方に作業協力をいただき、メンバーの皆さんに万華鏡の部品づくりのほぼ全工程を体験していただけたことです。当日の7名に加え、部品作成に2名、ポスター作りに1名、当日の出展品運搬に2名の方にもご協力いただきました。改めて感謝申し上げます。

ふるさとまつりは、じゃおクラブ湘南にとって大切な地域貢献活動のひとつです。これからも「子供工作教室」を通じて、この活動を続けていきたいと思っています。

（湘南 島村 忠男 記・太地 秀晴 写真）



じゃお県央

ヤマト羽田クロノゲート見学

11月27日（木）に羽田クロノゲートを見学しました。参加者は大場、鹿島、加藤、坂井、鈴木寿、鈴木弘、原、福山、別所、星野道、山口と会員外1名の12名で、13時20分に京急空港線穴守稲荷駅に集合しました。小さな駅ですが、羽田空港まで電車で2駅の位置にあり、近くにいくつかホテルがあることから、外国の旅行者が大きなトランクを引きながら何人も歩いていました。5分強の歩きで施設に到着。以前ここは荏原製作所があったところでした。

クロノゲートとは不思議な名前ですが、どうもギリシャ神話から取ったようです。「クロノ」とは時間の神クロノスのことです。ゲートは日本と海外の出入口ゲートウェイのことで、クロノゲートは造語です。

ヤマトの物流施設は全国に約80か所あり、羽田は其中で最大の施設とのこと。主に東京都と千葉県を受け持っており、近くに羽田・成田の両空港や東京港もある立地条件に恵まれ、陸・海・空物流の拠点になっています。



まず1919年創業のヤマトの概要説明を受けました。最初は百貨店等のトラック便から始まり、1976年のクロネコヤマト宅急便の開始が飛躍の端緒になったようです。羽田クロノゲートは2013年に開設されました。説明が終わり、物流棟内2階「見学者コリドー」の通路を通っての見学に入りました。荷物はトラックによって運ばれます。1階にある104ヶ所のバースに到着すると自動でコンベアーに乗って2階に運ばれ、赤ランプの点灯するスキャナーで行き先を読み取られ、合流コンベアーのセルに1個ずつ乗せられます。セルの大きさは縦58cm、横140cmで合流コンベアーに対して直角に動作し、行き先別コンベアーに落とし込まれます。1時間の処理量は約4万8千個で24時間稼働、作業量のピークは午後8時とのこと。なお、ゴルフバッグのような大きなものは別のコンベアシステムで流れるようです。

作業の全体はコンピューター制御で行われています。集中制御室は24時間モニターしており、機密保持のために普段はスモーク処理で中を見えなくし、スイッチで透明になるようになっていました。室内では見学時には3名のオペレーターがウォッチしていて、異常を見つけると現場作業員に必要な指示をして修正するようです。確かに、見学中に一つのセルに2個や、セルの間に1個の荷物が間違っ乗っているのを見ました。ただし見学中にコンベアー室に作業員の姿は見られませんでした。集中制御室に入るにはICカードと顔認証が必要とのことでした。

ヤマトの事業所は世界24か国にあり、専用航空機を持って13便を運航しています。また事業は宅急便に限らず、契約メーカーの電気製品の修理や、契約医療機関の手術機器の洗浄とお客様への直接輸送を受持って時間短縮にも貢献し、さらに一部の製品の関税手続きや印刷業務も代行しているそうです。

1時間半の見学を終えて解散しましたが、一部の人は近くの穴守稲荷を参詣したようです。

（県央 山口 安弘 記・大場 幸雄 写真）

じゃお多摩・田園

生田緑地で出会った冬紅葉—12月グラファーズ撮影会

12月3日、グラファーズは、川崎市の生田緑地にて紅葉の撮影会を行いました。当日の参加者は5名。集合は小田急線・向ヶ丘遊園駅南口改札です。そこからはバスで生田緑地入口へ向かいました。

向ヶ丘遊園は1927年に開園し、2003年に閉園した遊園地ですが、駅名は現在もそのまま残っています。かつて私は遊園地の近くに住んでおり、何度も子供を連れて行ったものです。遊園地が閉園した後も駅名に名が残っていることに、少し不思議な感覚を覚えます。

生田緑地への道すがら、片山さんが「ここには昔、遊園地へ向かうモノレールが走っていた」と話していました。老朽化により撤去されましたが、その存在を思い出すと、当時の風景が懐かしくよみがえります。

生田緑地には、日本民家園、かわさき宙（そら）と緑の科学館、岡本太郎美術館、枡形山広場・展望台、しょうぶ園、川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム、そして春秋限定で公開される生田緑地ばら苑など、多彩な施設が集まっています。

紅葉の見頃は例年11月中旬から12月中旬です。東口を入ってすぐ、イロハモミジの紅葉に出会いました。そこからは紅葉の連続です。一行は一番奥にあるメタセコイアの林へと向かいました。先に奥まで移動し、戻りながら撮影する計画です。メタセコイアはちょうど見頃で、林間に差し込む光を受けて輝いていました。「奥の池」の水面は様々な木々の落葉で覆われていました。メタセコイアの林では、お弁当を持参して紅葉を楽しむ老夫婦に出会いました。

撮影では、構図や光を考えてからシャッターを切ることの大切さを改めて実感しました。毎回の撮影会が、自身の撮り方を見直す良い機会になっています。撮影後は駅前で反省会を行い、一日を締めくくりました。時間の制約もあり、この日は行けなかった場所もあります。また改めてゆっくり訪れてみたいと感じた撮影会でした。



池を埋め尽くす落ち葉



助手を連れて

生田緑地撮影会の作品をホームページに掲載しています。下記URLよりご覧ください。

<https://jaoclub.com/tama-den-en/gallery/>

(ベイスайд 藤井 直敏 記・写真)

終戦 80 年、地下に残る司令部

一日吉台地下壕を訪ねてー

12 月 10 日、じゃお多摩・田園の「仲間と街歩き」では、横浜市の慶應義塾日吉キャンパス地下に残る戦争遺跡「日吉台地下壕」を見学した。主催は、保存活動が続ける「日吉台地下壕保存の会」。各地域から合わせて 15 名が参加した。終戦から 80 年を迎えた節目の年に、かつて連合艦隊司令部が置かれた地下施設跡を歩いた。

日吉キャンパスの地下には、太平洋戦争末期に旧日本海軍が構築した大規模な地下壕群が残されている。連合艦隊司令部地下壕、軍令部第三部（情報部）地下壕、航空本部等地下壕、人事局地下壕などで、総延長は約 2.6 キロメートルに及ぶ。キャンパス外には艦政本部地下壕もあり、これらを総称して「日吉台地下壕」と呼んでいる。

今回見学したのは、連合艦隊司令部地下壕、軍令部第三部（情報部）地下壕、航空本部等地下壕、東京通信隊関連施設に加え、地上の施設 2 か所である。

最初に見学したのは、旧慶應義塾大学予科第一校舎。現在は慶應義塾高等学校の校舎として使われている白亜の重厚な建物だ。建物の堅牢さに着目した海軍は、1944 年 3 月、慶應義塾と賃貸契約を結び、ここに軍令部第三部（情報部）を置いた。



旧慶應義塾大学予科第一校舎

現在は慶應義塾高等学校校舎
手前にグラウンドがある



竣工年を記す校舎壁面のレリーフ

中央に慶應義塾の校章
左に西暦で 1934、右に皇紀で 2594 と刻印

校舎に隣接するグラウンドでは、放課後になると生徒たちが野球やサッカーの練習に汗を流している。80 年前、同じ場所では学徒出陣する学生たちの壮行会が行われていたと聞く。日常の光景と戦時の記憶が重なり、静かな違和感を覚えた。

地上施設としては 3 棟の寄宿舍があり、連合艦隊司令部としての機能を担うと同時に、士官や下士官の宿泊所でもあった。

やがて一行は、地下壕の入口へ向かう。

錆の浮いた鉄扉を開けると、内部は急な下り坂になっている。地下壕は地下約 30 メートルに位置し、足元に注意しながら、ゆっくりと進む必要があった。

内部はひんやりとした空気に包まれていた。壁や天井はむき出しのコンクリートで、ところどころから地下水が染み出している。床には排水溝と排水桝が設けられ、地下施設としての実用性が感じられる。壁面には LED ランタンが設置されていたが、それだけでは十分とは言えず、見学者が持参した懐中電灯が頼りだった。

地下壕の建設は 1944 年 7 月頃に始まり、海軍の設営隊を中心に、民間の協力も得て約 4 か月という短期間で完成したそうだ。竪穴式の空気孔によって地上から空気を取り入れる構造で、壁の厚さは約 40 センチメートル。

司令長官室、作戦室、電信室、暗号室などの中枢機能は、地下壕の中心部に配置されていた。電力は地上から供給され、停電に備えて発電機室やバッテリー室も設けられていた。

当時、地上の寄宿舍と地下壕とは 126 段の階段で結ばれていたそうだ。今では階段部分は埋め戻されて立ち入ることができない。

地下壕が完成した 1944 年 11 月、日本海軍は太平洋戦線で敗退を重ねていた。戦局が悪化する中、主要艦艇を失い、航空兵力も不足し、次第に追い詰められていく。

空の戦いでは、特攻作戦が本格化した。特攻機の最期は、電信、すなわちモールス信号で知らされたという。突入を始めるときに「トン・ツー」と打電し、続いて突入するまで送信ボタンを押し続ける。「ツーー」という長音が途切れた瞬間、帰還できない兵士がまた一人増えたことを意味した。

電信室では、約 100 名の隊員が交代で昼夜を分かたず信号を受信していた。戦後、「あの音が耳について離れない」と語った元隊員もあったそうだ。

海の戦いでは、戦艦大和の水上特攻が知られている。1945 年 4 月 7 日、大和は航空掩護のないまま沖縄へ向かい、坊ノ岬沖で米軍機の攻撃を受け沈没した。

案内では、この作戦の決定が日吉（連合艦隊司令部）で行われたこと、また大和の沈没に至る状況を地下壕の通信室で受信していたことが紹介された。

乗員約 3,300 人のうち、約 3,050 人が戦死したとされている。

日本海軍は、こうした状況の中で特攻兵器も開発した。ロケット推進の航空特攻機「桜花」、人間が操縦する魚雷「回天」、爆薬を積んだ小型艇「震洋」など。いずれも戦局を覆すには至らず、多くの若い命が失われた。

今回、日吉台地下壕を歩いて、強く感じたのは二つのことだった。

一つは、戦争を「止める」ことの難しさ。もう一つは、なぜ戦争末期の無謀な判断を、もっと早い段階で止めることができなかったのか、という疑問である。

今年は終戦から 80 年という節目の年にあたる。太平洋戦争が始まった 12 月 8 日に近い時期に、この場所を訪れることができたことに、不思議な縁を感じた。

当日、足の不自由や体調の問題で参加できなかった会員の方々があったと聞いている。今回はその方々への報告も兼ね、誌面をお借りして当日の様子を伝えた。

当日、熱心に説明して下さった日吉台地下壕保存の会の皆さんに改めて感謝したい。日吉台地下壕は普段は非公開だが、「日吉台地下壕保存の会」が慶應義塾の許可を得て、月 2 回、案内付きの見学会を行っている。個人での参加も可能で、詳細は以下のウェブサイトを確認できる。

<http://hiyoshidai-chikagou.net/>

(多摩・田園 竹内 純一 記・写真)